

令和4年度のモデル事業について

- 第2回 令和3年度災害廃棄物対策推進検討会において、各地方環境事務所のモデル事業が紹介されております

<http://www.env.go.jp/recycle/waste/disaster/earthquake/committee2/r3-02.html>

○他事務所のモデル事業について

- ・東北では、人材育成事業を協議会の中での実施としておりますが、他事務所では協議会と切り分けて、モデル事業で実施しています。
- ・災害廃棄物処理計画策定支援事業は、処理計画の見直し、効果検証にシフト。
- ・図上演習は、災害担当者だけでなく関係部局、住民を巻き込んだ事業も。

○令和4年度の東北のモデル事業案

今年度改訂した「災害廃棄物対策東北ブロック行動計画の効果検証事業」により実際に災害が発生した場合の被災地に対する人的支援等、実効性の確保、及び手続き上の課題等を検証する事業にしたいと思っています。

2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（令和3年度から）

取組実施の背景と問題意識

- 災害廃棄物処理計画の策定率は向上しているものの、近年の災害において、災害廃棄物処理計画の見直しが継続して行われていなかった自治体での初動対応の遅れから、路上に大量の災害廃棄物が堆積する等の課題が発生

自治体が策定した災害廃棄物処理計画の効果を検証し、発災時の対応力向上を目指して災害廃棄物処理計画の更なる改善や充実を図ることを目的に図上演習等を実施

演習の概要

- 令和3年度は、埼玉県・神奈川県・静岡県の計画策定済み自治体を対象に実施
- 計画の検証に当たり、議論して参加者各自がじっくりと考えることができるよう、「対応型図上演習」を採用
- 参加者を複数のグループに割り振った上で、グループ毎に進行役（ファシリテーター）を配置し、進行役からの質問に対し計画を確認して回答する「問答形式」で演習を進行
- 演習（各県2回）の実施により計画見直しの必要性を認識してもらうとともに、「計画見直しが効果的に進むよう、フォローアップ（演習後、各県1回）の場も設定」

▼演習進行（やり取り）の状況



図上演習の写真平成30年度（参考）²

令和3年度中部地域ブロックにおける災害廃棄物処理体制強化モデル事業 (富山県・石川県)

概要

- ・富山県及び石川県の全自治体、関係組合等を対象とし、災害廃棄物が発生した際に必要となる作業や手順等を検討するグループワークを開催
- ・各県で3回ずつグループワークを実施した後、両県合同で県域を超える広域連携の検証をテーマとした図上演習を開催
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、合同図上演習以外はオンラインで開催。合同図上演習も、県をまたぐ移動をせずに、両県それぞれで会場を設け、オンラインで接続することで実施
- ・グループワーク及び図上演習の結果を踏まえ、発災時の初動対応に係るシナリオを整理し、自治体が主体となりグループワークを開催できるよう、シナリオ集及び運営方法をとりまとめ

1.対象

- 富山県：10市4町1村、4組合
- 石川県：11市8町、8組合、産業資源循環協会

2.モデル事業の取組方針

- 業務開始時に、対象団体に対しアンケート（右記参照）を実施し、関心がある事項を抽出しテーマを設定
- アンケート結果：「仮置場」の要望が最も多く、次いで「処理体制」「情報収集」「ごみ収集運搬」の要望も多く寄せられた。また、基本的・初歩的な事項からの説明を求める意見が最も多く寄せられた。

<事前アンケート項目>

～興味がある、詳しく学びたい事項～

- 自治体内の組織体制、他自治体や民間企業との連携に関する事
- 被害情報の収集・処理方法の判断に関する事
- 災害時の一般ごみ・避難所ごみ収集運搬体制に関する事
- 災害時のし尿処理や仮設トイレに関する事
- 資機材・人員の確保に関する事
- 住民への広報に関する事
- 仮置場に関する事（選定方法、管理、運営など）

令和3年度中部地域ブロックにおける災害廃棄物処理体制強化モデル事業 (富山県・石川県)

3.グループワークの実施内容

第1回 グループワーク
石川県：7/8、富山県：7/6

◆ 災害廃棄物処理事業の流れ

- ・災害廃棄物処理全体の流れのイメージの把握

◆ 災害廃棄物処理に係る組織体制の構築

- ・災害廃棄物に係る業務を担当する部署を明確化
- ・災害時に収集すべき情報を明確化
- ・円滑に組織体制を構築、情報収集を行うために
平時から備えておくべきことの整理

第2回 グループワーク
石川県：8/23、富山県：7/26

◆ ごみ・し尿収集運搬体制の構築

- ・発災時、生活系ごみやし尿の収集運搬や処理が
滞る要因とそれに対する平時の備えを整理

◆ 仮置場の選定、管理・運営

- ・仮置場候補地を選定する条件や事前確認が必要
なことを整理
- ・仮置場の管理・運営に必要な業務を明確化

第3回 グループワーク
石川県：10/5、富山県：8/19

◆ 仮置場の設置

- ・簡易な仮置場レイアウトの検討
(レイアウトを検討する上で留意することを意識)

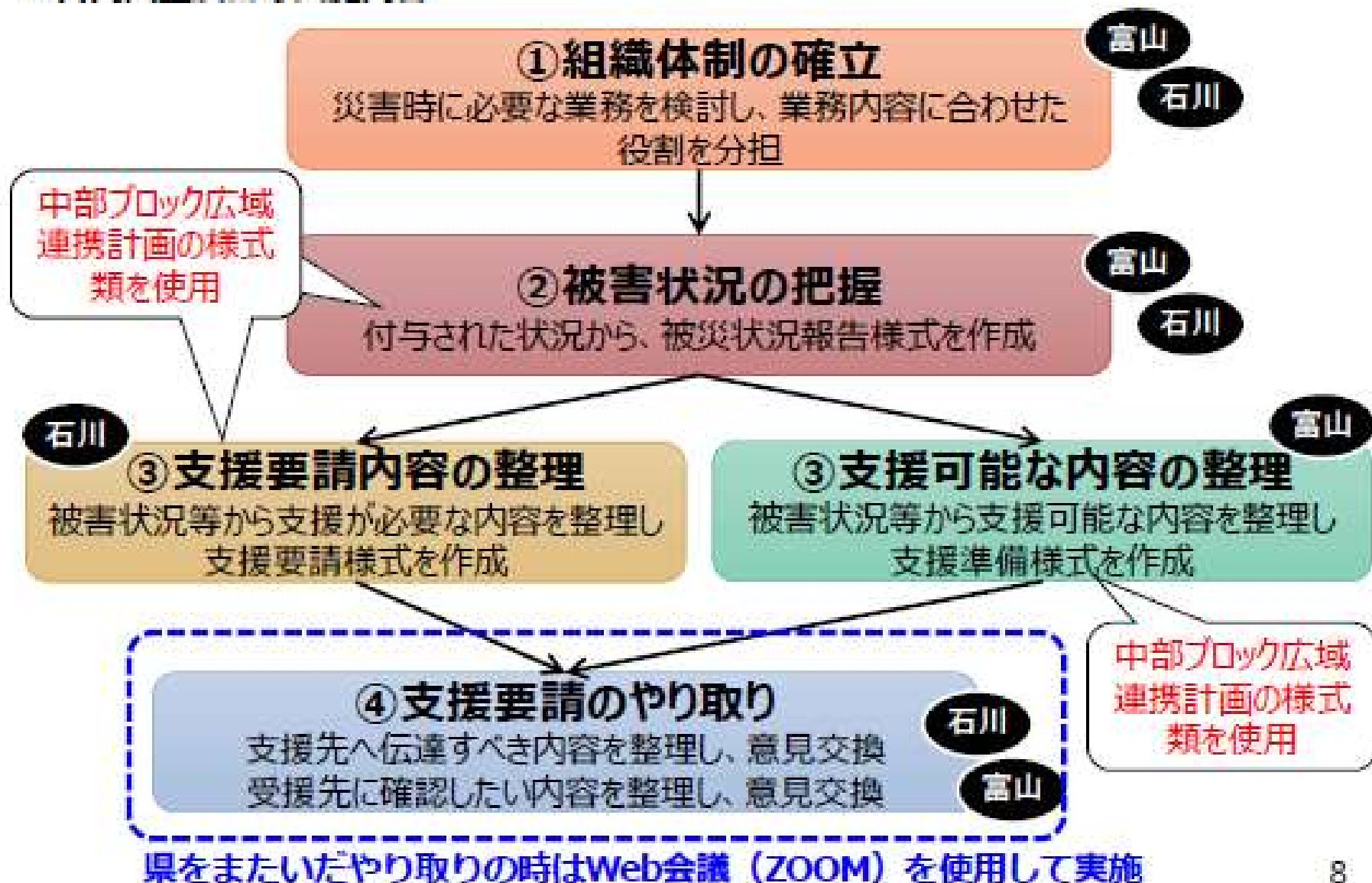
◆ 他自治体、民間事業者等への支援要請

- ・発災時、支援要請が必要となる具体的な内容を整
理
- ・支援依頼先へ伝達すべき内容の整理

合同図上演習

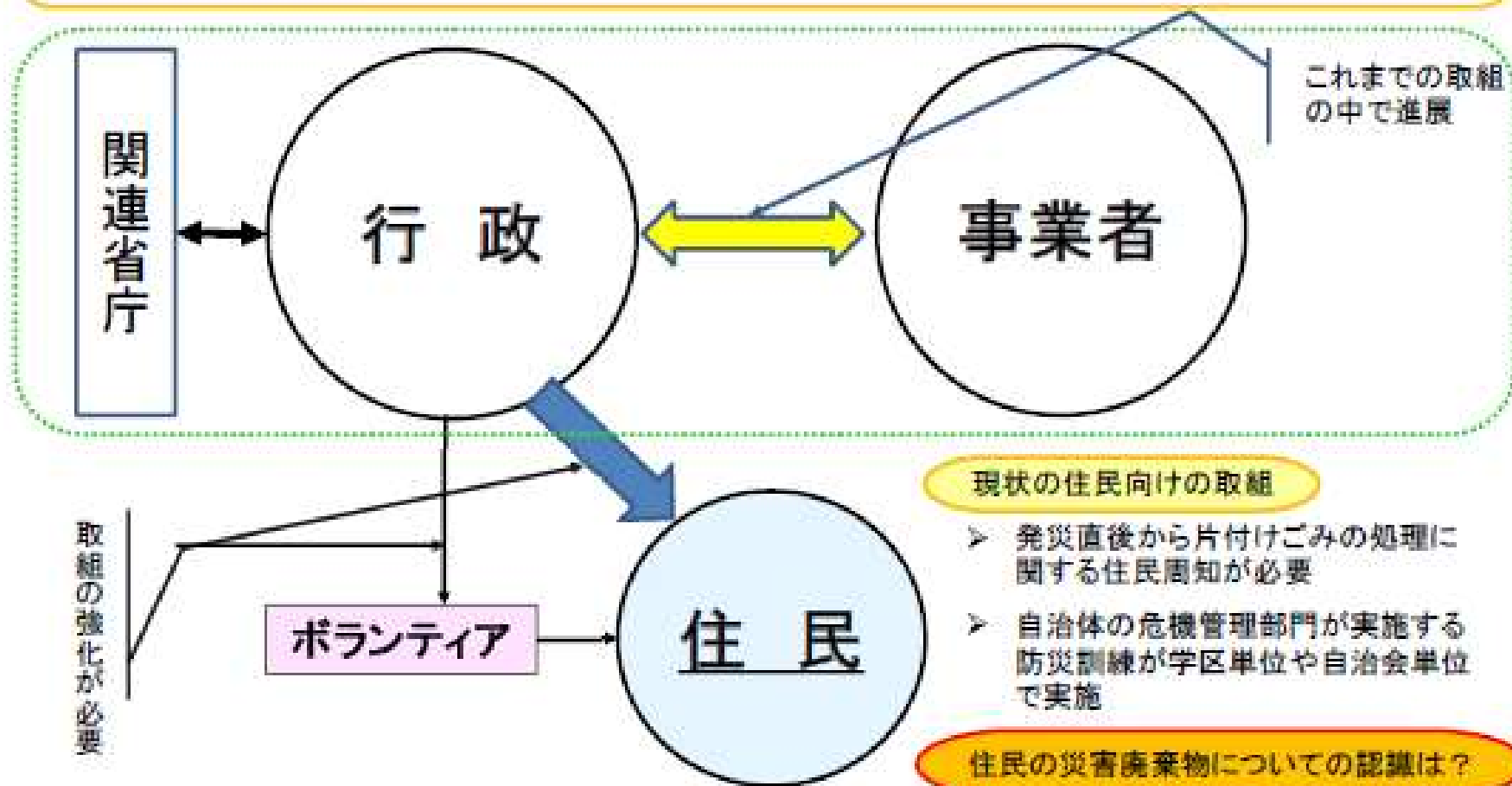
令和3年度中部地域ブロックにおける災害廃棄物処理体制強化モデル事業 (富山県・石川県)

4.合同図上演習の実施内容



災害廃棄物処理を担う者たち

- ◆ 自治体 ⇒ 計画策定や図上演習などを通じた人材育成の実施
- ◆ 関連事業者 ⇒ 協定締結、発災時における調査検討(人材、機材、連絡等)
- ◆ 被災住民 ⇒ **事前の取組はほとんどされていないのが現状**



住民啓発モデル事業の目的と概要（令和3年度）

- 近年の自然災害においては、被災家屋から排出された片付けごみが、路上や公園等に混合状態で積み上げられる状況が散見されている。
- 対策として、住民やボランティアに対する広報が重要視されているが、市区町村も混乱の中で十分な対応がとれていないのが現状である。
- このため、平時から市町村による住民向けの災害廃棄物処理に係る広報手段や説明会等、効果的な普及啓発への取組を支援する。



○災害に伴う廃棄物の住民用搬出マニュアル作成支援

- 市町村における自治会等と協議をし、発災時における地域住民と協同した収集方法の検討、集積所の管理についてのマニュアル作成を行う。

○防災部局と連携した災害廃棄物排出の実践訓練実施支援

- 市町村における自治会単位での防災訓練等において、災害廃棄物の集積と収集運搬方法について実践的に訓練や学習会を実施する。実施に至る検討過程や当日使用した資料等を手引き等としてまとめる。

○家庭内退蔵品の集積所排出模擬実験の実施支援

- 自治会単位で住民の家宅における退蔵品等を用いた集積所への排出模擬実験を実施する。排出用の集積所を具体的に仮選定し、収集運搬についての課題抽出を行うとともに、便乗ごみ・不法投棄の防止に対する認識の浸透を図る。

2021.11/28 住民用仮置場搬入模擬訓練の様子（その1）

ダブル効果の狙い！

■家屋の退蔵品の排出



■片付けごみ排出模擬排出



区長も大活躍

住民搬入の様子



かつらぎ町搬出の様子

参加者:65人(見学者運営側込み)

2021.11/28 住民用仮置場搬入模擬訓練 組成別搬入量

No.	組成	詳細	体積(m ³)	単位体積重量(t/m ³)	重量(t)
1	廃家電		0.49	1.13	0.55
2		畳、布団、敷物類、家具等	1.89	-	2.44
3	粗大ごみ		9.56		
4			16.31		
5	金属くず		7.21	1.13	8.15
6	金属くず(カゴ)		0.67	1.13	0.76
7	不燃物(カゴ)		0.07	0.79	0.06
8	処理困難物(カゴ)		0.09	0.79	0.07
9	不燃物(カゴ)		0.35	0.79	0.27
合計			36.63	-	12.29

実測値

※面積は自弁の範囲内であるが、体積計測のため大きく範囲指定しており実際に使用していた面積とは異なる。(参考値)

■ 廃棄物の体積から重量への換算係数

廃棄物種類	単位体積重量(t/m ³)	出典
可燃・不燃混合物	0.79	※1…混合ごみ・仮置き時
廃家電・金属等	1.13	※2…(13)金属くず

出典:

1…「災害廃棄物の重量容積変換について(第一報)」(震災対応ネットワーク(廃棄物・し尿等分野、国立環境研究所、2011年4月1日)

2…(別添2)産業廃棄物の体積から重量への換算係数(参考値)「産業廃棄物管理票に関する報告書及び電子マニフェストの復旧について(通知)」(環産産発第061227006号、平成18年12月27日)